かみのやま 歴史・文化財さんぽ

第４１号（令和４年２月）

せいこういんにっき 清光院日記

全 12 冊

あゆむ「コロナは、なかなかおさまらないな。」

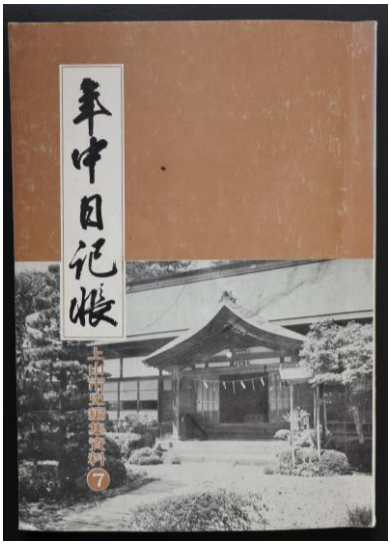
ミドリ「そうね。それに雪も大変だし。」

ふみお「こういう時、何か家で調べられるものはないかな。」

文じい「ふむ。上山の歴史の本や資料などはたくさんある。今日は、ちと難しいがこれを見てみよう。」

ミドリ「“年中日記帳”。」

ふみお「“上山市史編集資料❼”とある。」



文じい「上山の歴史が書かれた本は“上山市史”じゃが、その市史を発行する時に調べた昔の資料を、わかりやすい字に直して本にしてくれたものが、市史編集資料じゃ。No.36 まである。」

ミドリ「ふーん。わかりやすいと言っても漢字がたくさん並んでいてとても読めないわ。」

あゆむ「表紙の写真、お寺だよね。」

文じい「これは、“清光院”じゃ。」

ふみお「あ、軽井沢のところのお寺だね。」

ミドリ「あら、でも入り口の所に神社にあるような“しめ縄”が下げられているわ。」

文じい「清光院は、修験寺院といわれておる。」

ミドリ「修験というと、山で修行することね。」

あゆむ「ほら貝をふく、山伏とか。」

ミドリ「そう、出羽三山で、滝に打たれて修行するのをテレビを見たりするわね。」

文じい「自然の様々なものに命・霊が宿る。それらを含む山を信仰する山岳神道と、密教と呼ばれる仏教を合わせて祈り、法力を高めるのが修験道じゃ。」

ミドリ「密教というのは？」

文じい「ふむ。平安時代という時代に、中国から帰国して教えを広めたのが、最澄というお坊さんと空海というお坊さんじゃ。最澄は天台宗、空海は真言宗として広めた。」

ふみお「最澄は、伝教大師。空海は、弘法大師とも言ったよね。」

文じい「清光院は、天台宗寺院じゃ。それで、“天台修験羽黒派清光院”と称していたようじゃ。現在は、“神道大教清光院小教会”。」

ミドリ「そして、代々の院主が日記をしっかり書いて残しておいたわけね。」

あゆむ「えらい方々だったんだな。」

文じい「天台宗寺院代表で、上山藩と他の寺院とをつなぐ“触頭”という役目をもつ寺だった。」

ふみお「それじゃあ、きっと大事なことが記録されているわけだね、楽しみだな。」

ふみお「解説の文があるよ。」

文じい「湯上さんとあるが、清光院の院主で、市史編さん委員でもあった方じゃ。」

あゆむ「年表になっているものがある。これはわかりやすいんじゃない？」

ミドリ「なるほど。年代と事柄が載っている。」

ふみお「まず、寛保3(1743)年 8 月、当領一帯大洪水とある。」

あゆむ「大洪水か。次の 9 月は大風、とあるぞ。」

ミドリ「同じ年、“浅間山大やけ”？ 人馬多く死す。此の辺灰ふるだって。」

文じい「“やけ”は、火山噴火のこと。天明浅間山の噴火じゃな。それに、此の辺というのは、ここ上山。火山灰がここまできた！」

あゆむ「文化4(1807)年、大雪だ。」

ミドリ「弘化2(1845)年、青山辺より出火し、江戸屋敷焼失だって。それから、江戸大地震、当藩江戸屋敷被害なし、当地も少々ゆれる、だって。これ、全国ニュースよね。」

ふみお「地震は、“安政の大地震”のことだね。」

あゆむ「アメリカ船来り、とあるぞ！」

ふみお「アメリカのペリーの船だな。混雑したとある。大騒ぎだったらしいからね。」

ミドリ「ここの大凶作と書いてあるのは、たしか農作物があまりとれないという意味だったと思うけど？」

ふみお「そうだ、大飢饉というのも、作物がとれないので食糧不足で大変なくらしになったことを意味していたよね。」

文じい「その通りじゃ。旱魃とかいてあるのも、日照りが続いて水が不足し、作物が育たないということじゃ。」

あゆむ「大変なことが続くな。」

ミドリ「それから、もう一つ気になるんだけど、悪病大流行というのがあるわ。」

あゆむ「えっ、コロナかな？」

文じい「ふむ、実はコロナに限らず、天然痘やコレラ、麻疹(はしか)など、昔からいろいろな伝染病がはやり、多くの人々を苦しめてきた。」

ミドリ「そのような困ったことを、人々はどのようにして乗り越えてきたのかしら。」

ふみお「次の解説に“災害対策としての祈祷”というのが書いてある。祈祷というのはお祈りだよね。」

文じい「雨乞いとか、照乞い。風切り、虫送り。雨降りを願ったり、逆に晴れを願ったり、風を切ったり、虫を追い払おうとした。疫病送りもある。」

ふみお「疫病とは伝染病などのことだね。コロナの今と同じだ。」

あゆむ「でも、祈祷でうまくいくのかな？」

ふみお「科学や医学がまだ進んでいない頃には、それが一番じゃない？」

ミドリ「わたし、少しわかるような気がするわ。」

あゆむ「どういうこと？」

ミドリ「だって、世の中のすべてが神様や仏様のお考えのもとにあるということは、困ったことやわからないことは、お聞きしたりお願いしたりすることしかないということよね。」

ふみお「なるほど。今だって、コロナのことはまだまだわからないことだらけだからな。」

あゆむ「災害なども予測つかないことばかりだ。」

文じい「文化元年(1804)の悪病大流行のときは、疫病送りの行列が町中を練り歩いて、持ち歩いた人形を小泉橋、今の泉川橋から流したそうじゃ。形代と呼ばれる身代わり人形じゃな。」

あゆむ「それで、結果はどうだったのかな？」

ふみお「次の“祈祷行事一覧表”を見てみよう。」

文じい「この表に、祈祷の数が 77 件あがっているけど、よくなったのが 60%を超えたのではないかと解説に書いてある。」

ミドリ「何だかすごいことだと思うわ。」

文じい「そうじゃな。そのような日記が 12冊もあって、この本の内容は、6 冊目のものだ。」

ミドリ「それで文化財に指定されているわけね。大切にして、ここからもっといろいろ学びたいわ。」

発行： 上山市教育委員会生涯学習課文化財・文化芸術係 電話 023-672-1111（内線 314）